

文学

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義で日本文学においては、日本近代文学の巨匠夏目漱石が切り開いた近代小説の世界とは何か、彼の文学の人生についてアプローチし彼の心を理解する。中国文学から受けた影響、そして西洋文学から受けた影響を学ぶことで漱石についての理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス明治時代の日本文学について説明する。
2	夏目漱石という人物について、人生歴、交友、側面からアプローチする。
3	『草枕』を始め、『虞美人草』『三四郎』『門』等の作品から文学観の変化をとらえる。
4	熊本小温泉を舞台にした『草枕』の背景について初期の文学観について学ぶ。
5	『草枕』を読みながら作者の西欧文化に対する考えを理解する。
6	夏目漱石のイギリス留学について説明する。
7	『永日小品』を読みながら夏目漱石がイギリスに対する印象を理解する。
8	『永日小品』の「下宿」を解説する。
9	『永日小品』の「印象」を解説する。
10	『永日小品』の「昔」を解説する。
11	『永日小品』の「過去の匂い」を解説する。
12	『永日小品』の「暖かい夢」を解説する。
13	夏目漱石の作品を読みながら中国文学から受けた影響を理解する。
14	『草枕』を読みながら作者の東洋文化に対する考えを理解する。
15	夏目漱石の作品を学んだ総まとめ。

【履修上の注意事項】

夏目漱石の作品を読んでいくが、講義の時間だけでは限りがあるので、事前予習、事後復讐など積極して頂ければ、よりスムーズに講義が進むことができる。

【評価方法】

授業内に課す小レポート（40点）＋学期末試験（もしくは学期末レポート）（60点）

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

課題図書は授業時に適宜紹介する。

心理学 I

担当教員 永田 俊明

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

対人サービス領域の専門職に必要な心理学理論、心理学的な支援技法を学習し、心理学的な視点から人間を理解し、個人が直面し、抱える問題を心理学的に捉えられるようになることをめざす。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、心理学における”行動”
2	感覚・知覚の現象、理論と心理学的理解
3	欲求・感情の理論と心理学的理解
4	認知と動機づけの理論と心理学的理解
5	記憶・学習・知能（創造性）の理論と心理学的理解
6	成長と発達の理論、老化の現象の心理学的理解
7	発達段階と発達課題、心理的危機の理解
8	集団、組織、社会と個人の関わりの理解
9	パーソナリティ、性格の心理学的理解
10	環境への適応とストレス、対処行動の理解
11	ストレス症状とこころの健康の心理学的理解
12	心理学的支援技法ー心理検査、アセスメントーの理解
13	心理学的支援技法ーカウンセリング、相談支援技法ーの理解
14	心理学的支援技法ー多様な心理療法ーについての理解
15	まとめ

【履修上の注意事項】

シラバスに沿った進行に合わせてテキストの予定ページを確かめ、予習を行うこと。授業中に配布されたプリント内容をテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験が100% 本科目は再試験を実施しないので注意すること。

【テキスト】

『心理学 カレッジ版』医学書院

【参考文献】

必要に応じ指示する

心理学Ⅱ

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

“心理学の視点から身近な疑問をどのように読み解くか理解できるようにする。
心理学Ⅰで学んだ基礎心理学をベースに心理学の興味深い点を理解できるようにする。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	無気力はなぜ起こるか
3	思考力・問題解決能力を伸ばす方法
4	向性でわかるもの
5	人間発達と臨界期
6	発達の逸脱を理解するためには
7	記憶と“ど忘れ”
8	詐欺の心理学 振り込め詐欺など
9	虐待の原因と予防法
10	うつ状態の心理と予防策
11	人を評価し判断する視点
12	因果関係を確認する
13	相関的方法 見えないものを数字で表す
14	こころと身体の健康
15	意思決定について考える

【履修上の注意事項】

予告されたテキスト範囲について授業前に目を通し、授業後は配布されたプリント内容についてテキストで確認してください。

【評価方法】

期末試験 100% 本科目は再試験を実施しないので注意すること。

【テキスト】

未使用。心理学Ⅰを履修していた学生は、使用したテキストを持参すること。

【参考文献】

必要の都度、指示する

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、人間の生涯発達に関する心理学上の法則と問題の特徴や特性の基礎知識を理解することができる。また、胎児期、乳幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、高齢期の各発達段階における発達課題とその心理臨床的課題、及び人生早期の発達障害に関する基礎知識に基づき、人間の多様性を考えることができるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	発達を通じた基本的人間理解に関するガイダンス
2	発達における生物学的制約、ヒトと人
3	発達心理学の視点：獲得・消失・量・質というとらえ方の重要性
4	発達心理学の視点：一貫性と変化性
5	人間関係システムの発達：家族とアタッチメント、養護性
6	読み・書き・話すという行動の発達と発達上の課題や問題、学童期の学習障害の理解
7	他者理解と自己理解を巡って、対人関係の基礎 自閉症スペクトラムという課題
8	遊びと感性と愛他行動
9	発達における心理的事実：感覚の時代・情緒の時代・知能の時代と問題
10	発達における心理的事実：精神生活の時代と臨床的問題
11	発達における心理的事実：親密性と孤立、生殖性と停滞の時期と課題
12	発達における心理的事実：統合と絶望が課題の時期と問題
13	パーソナリティの発達 文化の中で生きるということ
14	特別な心理的支援ニーズを必要とする人たち（発達障害）への援助に関する心理学的援助の基本
15	発達研究の枠組み：時間・文脈・文化との関係で

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回授業内容に関して必ず教科書の当該箇所を読んでおくこと。

【評価方法】

学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、筆記試験により評価を行う。

【テキスト】

『発達心理学への招待』 柏木・古澤・宮下著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

講義過程でも適宜紹介の予定

哲学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

哲学という科目は、日本とは全く異なり、ドイツやフランスでは高校の必須科目として学び、大学入試の際にも4時間で大論文という形式の下、たとえば「対話は真理に至る道か」という出題であります。「言葉」を、自分の「言葉」を書き言葉として正確に豊富に形成することが求められます。日本の大学に入学した者に、今まで使ったことのない頭脳を使うという訓練を要求します。誰もが一人で生まれて一人で死んでゆくことを発見した者が、その個体存在のかけがえのなさを尊重し、その有限性を乗り越える広場に入ることができます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人類の獲得した思考様式の三つの類型と日本文化に不足する対象化的思考様式
2	日本近現代と世界史
3	普遍的なものの発見と、その論理的解明の要求。ソクラテス的問いの遂行と「知の次元」の登場。
4	「…とは何か」という問いと定義付けの実践練習
5	「私は…である」という表現と「人格の次元」「信の次元」の登場、「それ自体」という世界観
6	「本性上先なる世界」から「人間にとって先なる世界」を優位とする近代的世界観の登場
7	17世紀：自らを開く欧州と自らを閉ざす東アジア① ベーコン、アメリカ上陸、織田信長、鎖国
8	同上 ②風景画と自画像の出現、パスカルの「深淵」、セルバンテスの「憂鬱」、リアの「悲劇」
9	同上 ③近代プロテスタントの「孤独」と「世俗内禁欲」、近代資本主義の成立
10	18世紀：近代西欧の思想空間、カント三批判の哲学1
11	同上 カント三批判の哲学2
12	ヘーゲルによる「精神の労働」、対象化される人間存在
13	現代：「においてある」思考の優位（「環境」「場」「状況」の発見）
14	作為と不作為の非対称性の登場
15	作為と不作為の非対称性の克服へ

【履修上の注意事項】

講義終了後、次回までの予習と復習を兼ねて「キーワード3つ」と「授業への感想（関心）、理解度、注文と希望」を文章形式で提出してもらいます。

【評価方法】

感想などの提出は20点、レポートは10点、定期試験は70点という評価方法です。

【テキスト】

R.v. ヴァイツゼッカー著山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）
山本 務・熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社）

【参考文献】

講義中に折に触れて適宜、提示。

法学 I

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日の社会で要求される法感覚、さらに私たちが日常生活を送る上で必要な法知識を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

①社会生活における法的作用および役割、②民法の財産法および家族法の基本的な考え方、③医療・福祉サービス利用者の権利とその救済方法、④成年後見制度および日常生活自立支援事業、⑤医療・福祉職の専門性と法的責任

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	法と日常生活——講義計画の紹介、何をどこまで学ぶか、法というものの考え方
2	家庭生活と法（1）——親族の範囲・効果
3	家庭生活と法（2）——婚姻・離婚とその効果
4	家庭生活と法（3）——相続の一般原則、法定相続と遺言相続、相続をめぐる諸問題
5	消費生活と人権（1）——悪質商法の法的問題点、物権と債権の基本的異同
6	消費生活と人権（2）——クレジット取引の仕組み、契約の拘束力・相対性
7	刑事手続きと人権（1）——法的責任、犯罪と刑罰、刑務所と前科
8	刑事手続きと人権（2）——不法行為責任と刑事責任の異同、行政上の処分の独自性
9	医療・福祉サービスに関わる法（成年後見制度と日常生活自立支援事業、行政行為と行政争訟）
10	医療・福祉専門職の根拠法（医療・福祉職の専門性および資格、社会福祉各法の適用対象者）
11	医療・福祉職の連携（看護・介護事故、看護と介護の関係、職務の専門性と就業問題）
12	病院・施設の設置基準と法律問題（医療・福祉サービスの公共性、設置基準の法的拘束力）
13	障害者の雇用・就労支援（障害者雇用促進法、法定雇用率、勤労の権利と義務）
14	ふたたび人権を考える（雇用対策と差別の禁止、労働市場における公正、人権の普遍性）
15	医療・福祉職と法（高齢社会における課題と役割分担、行為準則としての法）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。

野崎和義監修『社会福祉六法』2017年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

法学Ⅱ（日本国憲法）

担当教員 野崎 和義

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

医療・福祉さらには教育の実践にあたって必要な憲法感覚を身につけることを目標とする。具体的には、以下の事項についての理解を目指す。

- ①日本国憲法の基本原理、②基本的人権の意義および機能、③基本的人権を保障するための仕組み（国および地方公共団体の組織・権能、財政）、④行政情報へのアクセス（情報公開）、⑤行政の役割と法治国家原理（行政行為、行政手続き、行政不服審査・行政訴訟）

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	取引社会と医療・福祉の権利（取引社会のルール、契約原理の修正、国家と個人）
2	日本国憲法の考え方（人権規定の私人間効力、裁判例の分析、人権という思想）
3	日本国憲法の構成（三つの基本原理、基本的人権のカatalog、人権保障の仕組み、特別条項）
4	基本的人権と公共の福祉、基本的人権の主体（内在的制約と外在的制約、外国人・法人の人権）
5	プライバシーの権利と個人情報の保護、情報公開制度（行政情報へのアクセス）
6	自己決定権の尊重と医療・介護（インフォームドコンセント、身体拘束の禁止）
7	自由権（とくに人身の自由、少年の刑事手続き、資格制限と社会復帰）
8	法の下での平等と合理的差別（男女共同参画、セクハラと男女雇用機会均等法）
9	家族生活における平等（介護と扶養、介護保険制度導入の背景）
10	社会権の思想（平等権から社会権へ、生活保護法の基本原理と裁判例）
11	高齢社会における社会保障（社会保障の法体系、高齢者と住居、看護・福祉の労働）
12	その他の基本権——参政権、受益権（施設入所高齢者・障害者の参政権保障、国家賠償請求権）
13	国家の機構（三権の抑制と均衡、裁判所の仕組み）
14	財政、地方自治（財政の基本原則、自治体の行政権・立法権、行政争訟）
15	医療・福祉と日本国憲法（民主主義と少数者の人権、統治機構の役割）

【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

【評価方法】

定期試験(100%)の成績によって評価する。

【テキスト】

野崎和義著『医療・福祉のための法学入門』2013年、ミネルヴァ書房。
野崎和義監修『社会福祉六法』2017年、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

各回の講義の際に紹介する。

社会学 I

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第 1 学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会理論による現代社会の捉え方について、生活の理解について、人と社会の関係について、社会問題について学び、それらを分析し解決する能力を修得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会システム(社会システム、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標)
2	社会変動について(社会変動の概念、近代化、産業化、情報化など)
3	人口について(人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化など)
4	地域について(地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会など)
5	地域について(過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織など)
6	社会集団及び組織(社会集団の概念、第一次集団、第二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト)
7	社会集団及び組織(アソシエーション、組織の概念、官僚制など)
8	家族について(家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能など)
9	生活について(生活構造、ライフステージ、生活時間、消費、生活様式、ライフスタイル、生活の質)
10	人と社会の関係について(社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマなど)
11	社会問題について(社会問題の捉え方、社会病理、逸脱など)
12	具体的な社会問題について(差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除など)
13	具体的な社会問題について(ハラスメント、DV、児童虐待、いじめ、公害、環境破壊など)
14	生活支援と福祉について(生活の概念、福祉の考え方とその変遷など)
15	生活支援と福祉について(自助・相互・共助・公助など) ・まとめ

【履修上の注意事項】

ノートを毎回きちんと取る。授業前にその単元を一度読み自分なりにまとめておき、授業後は教科書とノートを照らし合わせて復習をしておくこと

【評価方法】

定期試験 80%、授業への取り組む姿勢 20%

【テキスト】

『社会学入門』秋元他 3名 有斐閣新書

【参考文献】

適宜紹介する

経済学

担当教員 中宮 光隆

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済は私たちの生活の中の大きくて重要な部分を占めているのに、とかく「難しい」といわれる。聞き慣れない用語が多いこと、常に変化していることがその原因の一端になっている。そこでこの授業では、日本と世界の経済の動きに関心を持つようになること、また新聞やテレビ等メディアによる経済に関する報道内容がより良く分かるようになって、経済の実情や課題に関する理解を深めることがねらいである。

【授業の展開計画】

授業内容は大きく分けて4つある。①経済学とはどのような学問か、現代社会の仕組みはどうなっているのか、②経済はどのように変化し発展してきたか、③現代経済の実情と、それを知る方法は何か、④現代経済の課題は何か、である。これらを順次考察する。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（経済学とは何か、その由来や対象を知る）
2	社会と経済（社会の仕組みと資本主義経済の成立と発展を概観する）
3	戦後経済発展の軌跡①（1940年代から60年代の日本と世界の経済状況を振り返る）
4	戦後経済発展の軌跡②（1970年代のオイルショック、1980年代のレーガノミクスを知る）
5	日本のバブル経済（1980年代後半のバブル経済とはどのようなものだったのかを知る）
6	日本経済の長期不況とその対策（1990年代の不良債権処理、2000年代の金融政策等）を知る。
7	現代世界経済の焦点①（1990年代以降のアメリカ経済と住宅バブル）
8	現代世界経済の焦点②（金融危機と世界同時不況）
9	現代世界経済の焦点③（欧州信用不安と新興国の台頭）
10	経済の実情を把握する①（経済の循環と経済統計の見方）
11	経済の実情を把握する②（貿易と国際収支、アベノミクスと財政赤字・消費税）
12	経済のグローバル化と経済連携（FTA、EPA、TPP、APEC、等々）
13	地球環境問題と現代経済（温暖化防止対策と国際協力）
14	地球環境問題と現代経済（自然エネルギー開発と経済発展）
15	経済のグローバル化と食糧問題

【履修上の注意事項】

事前に配布するプリントをよく読んで、わからない言葉は辞典等で調べておくこと。

【評価方法】

期末試験100%

【テキスト】

特に使用せず、講義（事前に）の際にプリントを配布する。

【参考文献】

講義の際に紹介する。

経営学

担当教員 黄 在南

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

組織における経営能力、すなわちどのように課題を認識し、目標を決め、人々を協働させ、成果をあげるかについて理解し実践する能力、を育てる。将来的には、組織のリーダーとして活躍することが期待できるが、特に医療の現場では「認定看護管理者」としてキャリアを発展させていくための土台を作ることも授業の狙いの一つである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入①（経営とは何か）
2	見えざる経営（見えざる資産、信用を築く）
3	経営理念①（組織の存在理由；信用を築く、組織のアイデンティティ）
4	経営理念②（シェアド・マインドセットの創造）
5	経営戦略①（組織のあるべき姿へのシナリオ；経営戦略、競争の意味）
6	経営戦略②（差別化、事業構造の戦略、なぜ複数事業なのか）
7	経営戦略③（事業領域、資源の配分）
8	中核能力①（経営戦略の焦点；コア・コンピテンシー、製品のイノベーション）
9	中核能力②（経営効率、顧客との親密度、流通、技術）
10	人材育成①（能力と意欲という資産；組織ケイパビリティ、コンピテンシー）
11	人材育成②（学習、コミットメント、コミットメントの創造）
12	組織の設計①（組織における協働の枠組み；計画とコントロール、コミュニケーション）
13	組織の設計②（組織構造の設計；分業関係、部門化、権限関係、伝達と協議の関係、公式化など）
14	組織の設計③（組織構造の選択；職能別組織、事業部制、マトリックス組織、チーム組織など）
15	リーダーシップ（変革の時代におけるリーダーシップ）

【履修上の注意事項】

本授業では経営学の難しい話しよりも、履修者が1～2年後には社会に出ていくことを勘案し、医療の現場で実際に経験することになる組織経営に係る諸課題を授業のテーマとしながら、組織のリーダーとしてどう考え、どう行動すべきかについて議論する。したがって、授業前に課題について紹介し予習を促すと共に、授業後は授業の理解度をそのつど確認する。

【評価方法】

レポート50%と発表50%（これらの評価方法により、知識習熟力、知識活用力、知識創造力、知識表現力を見る。）

【テキスト】

指定する教科書は特にない。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

講義の際に適宜、紹介する。

教育学

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

自分が既にもっている教育に関する「常識」を踏まえつつ、それを超えて「教育」を「科学（学問）」的にとらえることができるようになる。「『教育』を根本から考える」作業を通して、自分なりの「教育観」をもち、今日の教育課題について主体的に考える態度をもつことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	教育とは何か
3	心身の発達
4	学校の歴史
5	子どもの歴史 ①古代・中世
6	子どもの歴史 ②教育対象としての子ども
7	子どもの歴史 ③ルソーによる「子どもの発見」
8	近代教育の思想と実践 ①ペスタロッチ
9	近代教育の思想と実践 ②ヘルバルト、フレーベル
10	近代教育の思想と実践 ③新教育運動
11	アメリカにおける進歩主義教育 ①前史：超越主義の教育思想（エマソン、ソロー）
12	アメリカにおける進歩主義教育 ②前史：超越主義の教育思想（ブロンソン・オルコット）
13	アメリカにおける進歩主義教育 ③超越主義から進歩主義へ
14	アメリカにおける進歩主義教育 ④デューイの教育哲学
15	現代の学校教育をめぐる論点

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 授業に際しては事前に資料を読み、事後には復習をすること。

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教職論』（ミネルヴァ書房、2017）

【参考文献】

授業内において適宜紹介する。

コミュニケーション論

担当教員 佐藤 嘉倫

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

コミュニケーションについての基礎的な概念やモデルについて学ぶとともに、言語・非言語などのコミュニケーション手段、様々な状況におけるコミュニケーション行動や人間関係の特徴などについて主に心理学の立場から考え理解を深める。また対人援助場面における人間関係の特徴について学び、理解できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コミュニケーション論とは
2	対人コミュニケーションの特徴
3	コミュニケーションの障害
4	対人交流パターンの分析（自らのコミュニケーションのあり方を見つめる）
5	コミュニケーションの様々な形1（コンピュータ）
6	コミュニケーションの様々な形2（電話）
7	コミュニケーションの様々な形3（マス・コミ）
8	援助技術としてのコミュニケーション
9	援助技術としてのコミュニケーション2
10	ストレスとコミュニケーション
11	人間関係とコミュニケーション
12	コミュニケーション・スキル1（言語的コミュニケーションの活用）
13	コミュニケーション・スキル2（非言語的コミュニケーションの活用）
14	自己分析
15	まとめ

【履修上の注意事項】

- ・講義前に参考文献や配布資料をもとに事前学習を行って下さい。
- ・講義後の振り返りを各自行うようにして下さい。

【評価方法】

授業態度60%、レポート40%

【テキスト】

なし（講義中に資料を配付）

【参考文献】

『インターパーソナルコミュニケーション～対人コミュニケーションの心理学』 深田博己 北大路書房

カウンセリング論

担当教員 忽那 かずみ

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他者援助において基本となる代表的なカウンセリング理論を理解する。併せて、それぞれのカウンセリングの実践における本質的な考え方や方法上の相違点を理解する。また、それぞれのカウンセリング理論および密接に関係する心理検査の学修やワークを通じて自己理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーションと序論
2	カウンセリングの基礎
3	カウンセリングの実際
4	精神分析療法の理論と実際
5	来談者中心療法の理論と実際
6	行動療法の理論と実際
7	論理療法の理論と実際
8	認知療法の理論と実際
9	認知行動療法の理論と実際
10	ゲシュタルト療法の理論と実際
11	交流分析療法の理論と実際
12	日本の心理療法の理論と実際
13	箱庭療法とコラージュ療法（切り抜いてもよい雑誌2～3冊、はさみ、のりを持参すること）
14	カウンセリングと心理検査
15	カウンセリングと精神疾患

【履修上の注意事項】

テキストで事前学習してください。講義時間内にカウンセリングと関連する心理検査の実施を含む場合があります。毎回の講義後に振り返りを行い、理解を深めてください。講義では実際のケースを取り上げたり、具体例を話すことがあります、また、演習（グループワーク等）の中で個人的な話が出されることもありますので、個人情報扱いには細心の注意を払い、絶対に口外してはいけません。演習（グループワーク等）では、他の人の意見を否定や批判をしない、違う意見も尊重する、発言は最後まで聴く、全員が発言することをルールとします。

【評価方法】

定期試験50%、演習（ディスカッション、グループワーク、授業態度等を含む）20%、振り返りシート（レポートを含む）30%

【テキスト】

山蔦圭介著、宮城まり子監修『基礎から学ぶ カウンセリングの理論』、産業能率大学出版部

【参考文献】

必要の都度、指示します。

ボランティア論

担当教員 西島 衛治、川原 英照、宮田 喜代志

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【教育目標】高齢者や障害児者と共に生きる社会が、ノーマルとする理念を現実化するためには、地域の人々の参加や協力が必要である。このようなボランティア活動にシステムやルールがあれば、より高いサービスが提供できるであろう。そのほか、受講する学生が、心理面のサポートのあり方等についても考え、実践のための基礎づくりを目指す。将来にNPO法人を設立し、福祉や介護事業などの社会貢献が実践できる基礎知識を身に付けることができる。

【授業の展開計画】

オムニバス方式で4人の講義を展開し、それぞれのボランティアの考え方を情報源として、学生にボランティアのあり方を追求してもらう。Ⅰ. [西島 衛治] 本科目全体のコーディネートをを行う。児童福祉とボランティア。Ⅱ. [川原 英照] 本古来の発想に基づくボランティア論を押さえ、その具体的活動を紹介しつつ、国際協力としてのボランティア活動の現実を伝える。Ⅲ. [宮田 喜代志] NPO法人が行う事業の整理を試み、その活動内容評価についての視点を明らかにする。講義全体で学生同士のディスカッションも重視する。

週	授 業 の 内 容
1	社会経済環境の変化とボランティア活動との関連性を学習する (西島衛治)
2	勤労者・企業等とボランティア活動の意義について学ぶ (西島)
3	勤労者(企業人)のボランティア活動の現状と問題点を把握する (西島)
4	企業・労働組合の社会貢献活動とボランティア支援の現状を把握する (西島)
5	ボランティア・NPOと企業・行政とのパートナーシップとボランティア社会の関係性 (西島)
6	「最高のボランティアはお母さんだ」を考える (川原英照)
7	「愛ってなんだろう」を考える (川原)
8	「自分の存在価値って何？」を考える (川原)
9	「自分と他者(他者になることはできない)」との関わり合いを考える (川原)
10	「国際社会と日本のちがい」について議論する (川原)
11	NPO法人の設立と活動を多くの資料から学ぶ (宮田喜代志)
12	NPO法人の実践事例分析を通してNPO法人の将来性を理解する (宮田)
13	地域の福祉ネットワークの中におけるNPO法人の役割りを多くの実践を通して学ぶ (宮田)
14	大きな福祉論とコミュニケア活動の重要性を認識する (宮田)
15	総括としてこれまで学んだ社会貢献の在り方を議論し理解を深める (宮田)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する(120分) 【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化したり表に整理する。(120分) 【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

1. 予習・復習による自主学習態度の確認(20%), 2. 定期試験や中間理解度確認試験による評価(60%)
3. レポートによる評価(10%), 4. 講義における質疑応答状況(10%), 出席重視(5回以上の欠席は定期試験が受験不可):学則により、欠席回数が講義回数のおよそ三分の一を超えると、定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】

西島衛治編著「ボランティア・NPO論(仮)」、2017年4月発刊予定
プレゼンテーションの配布資料など

【参考文献】

参考書『季刊「みろくの風」』ARTIC発行、西島衛治編著「実践的ボランティア論」筒井書房、2011

体育

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義・演習

単位数 2

【授業のねらい】

心身の健全な発達の促進、運動やスポーツに内在する楽しみや技能、健康、体力の保持・向上・増進のための運動処方などを総合的・実践的に自ら把握できるようになる。

【授業の展開計画】

1. 運動行動と身体とのかかわりを説明できる
2. 運動しないと身体へどのような影響が考えられるか説明できる
3. 身体組成から見た運動行動の大切さについて説明できる
4. 無酸素運動について説明できる
5. 有酸素運動について説明できる
6. 筋肉の種類から見た運動の適正について説明できる
7. 運動の強度と運動時間について説明できる
8. 運動とエネルギー供給の関係について説明できる
9. 運動の種類と循環器の関係について説明できる
10. メタボリック理解とその対策について説明できる
11. 運動と栄養・休養との関係について説明できる
12. 運動によって引き起こされる運動障害について説明できる
13. トレーニングの種類とその効果について説明できる
14. 運動を行うに時に注意すべき事項について説明できる
15. 健康維持のための運動について説明できる

【履修上の注意事項】

授業前に資料の該当部分を読み、内容の予習を行うこと。また、復習として授業内容をふまえ、測定結果を500字程度の文章で所定の提出用紙にまとめておくこと。

体育資料を毎時間持参すること。

演習授業は体育着で行うこと。

【評価方法】

演習レポート30%、自主的学習態度10% 課題レポート20% 体育ノート作成40%による総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

運動生理学 講談社 岸恭一

倫理学

担当教員 山本 務

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成29年度は履修者が10名未満の場合閉講

【授業のねらい】

倫理が各分野で要求される時代に日本もようやく入りました。学問としての倫理学は、近代的な人間観に立脚しており、その基本形をまずドイツのカントとヘーゲルにおいて確定します。次に、20世紀後半に倫理の中核へと登場した「責任」という原理をめぐって、「作為と不作為」を掘り下げて考察します。他者危害の作為は古来から今日まで「万人の義務」であるとされ、現代の我々の倫理観の中に入っておりますが、他方、他者支援の作為は「万人の義務」として感受されていません。このギャップを埋める道をとともに探求することができます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	I-1 近代的な世界観の確定「人間にとって先なる世界観」優位の倫理観
2	I-1-2 カント倫理学における「道徳性Moralitaet」、個人としての人格と良心
3	I-1-3 同上2
4	I-1-4 ヘーゲルにおける「人倫Sittlichkeit」：倫理の現実化としての国家、市民社会
5	I-1-5 同上2 倫理の現実化としての家族、法、制度、家族
6	I-1-6 近代日本の国家と倫理の一体化
7	I-1-7 現代日本の倫理的状況
8	II-1 作為と不作為という考え方：罪責の二類型の発見
9	II-2 ドイツ・戦後40周年ヴァイツゼッカー大統領演説の場合
10	II-3 不作為の定義付け：作為の変種から対概念の位置へ
11	III-4 不作為の概念分析（回数としての不作為、原因としての不作為）
12	III-5 不作為の特殊形態：「生起するままに放置すること」
13	IV-1 概念枠から現実が初めて見えるということ
14	IV-2 現代日本における不作為問題の事例研究：ハンセン病問題
15	IV-3 同上、薬害問題、いじめ、水俣病問題、アスベスト問題

【履修上の注意事項】

日本の現在進行中の出来事、たとえば、水俣病関西訴訟判決以降の様相、ハンセン病問題、薬害肝炎訴訟、中国残留日本人孤児問題、医療過誤など、活字メディアによく目を通して、それらを切抜きして、各自が独自の教材をつくるという意欲を求めます。予習復習を兼ねて、指定教科書の熟読と質問をしてください。

【評価方法】

毎回の感想文提示=30点、レポート提出=20点、定期試験=50点。

【テキスト】

山本 務、熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社）
R. ヴァイツゼッカー著、山本務訳著『過去の克服・二つの戦後』（NHKブックス705、日本放送出版協会）。

【参考文献】

講義中に適宜教示。

比較文化論

担当教員 未定、金 蘭九、A. J. サザランド、安藤 学、高 継芬

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、欧米諸国やアジアの文化・社会・価値観・人々の考え方を、具体的な事例に基づいて日本と比較させ、異文化理解を図ると共に、人間と文化の総合的な関係を理解することができるようになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。日独、戦後復興の後に（山本）
2	戦後40周年の日独、戦後50周年の日独（山本）
3	中国あるいは東南アジアについて（安藤・高）
4	メディアを通じた異文化理解（サザランド）
5	映画と社会、文化（サザランド）
6	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間1（サザランド）
7	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間2（サザランド）
8	映画が語る欧米諸国の社会、文化、及び人間3（サザランド）
9	比較言語学が見る日本語と英語・ドイツ語：テーマとレマ（山本）
10	テーマとレマによる「冠詞の選択」（山本）
11	主語・述語型言語と主題・陳述型言語（山本）
12	日韓文化の遠近（金）
13	医療と福祉・日本と韓国（金）
14	障害者福祉の基本・国際比較（金）
15	まとめと試験（山本）

【履修上の注意事項】

復習と予習を兼ねて、毎回レポートを提出です。

【評価方法】

レポート（または定期試験）で評価する。

【テキスト】

〔山本 務〕『過去の克服・二つの戦後』R.V. ヴァイツゼッカー、山本 務、日本放送出版協会。『日本の思想』丸山眞男、岩波書店〈岩波新書〉。

【参考文献】

授業の中で、適宜紹介する。

英語 I (医療英語)

担当教員 A. J サザラント

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

To study, practice and learn essential English used in nursing within hospitals. Study focuses on nursing contexts, and medical situations. Starting from admissions procedures, accident and emergency or referral, through care and monitoring, treatments and monitoring procedures to discharge. Learning is through study, practice and language development.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to the class, study procedures and outcomes.
2	Admissions procedures: emergency and referral
3	Medical specimens and tests
4	Wounds, wound care, infection control
5	The respiratory system, disease, e.g., asthma, and care.
6	Diabetes, chronic disease patients, care, outcomes
7	Medications, administration and management
8	Review of study, practice and test report
9	Nurse-Patient interactive speaking test 1
10	Intravenous infusions procedures with patients, and medications
11	Pre-operative patient procedures and evaluations
12	Post-operative patient procedures and evaluations
13	Patient hospital discharge and onward referral
14	Review of study, practice and test report.
15	Nurse-Patient interactive speaking test 2

【履修上の注意事項】

Study through participation, and variation of the situation and patient needs.

【評価方法】

2 Nursing - patient interactive spoken tests 30%, medical language test 60%, weekly participation in study and practice 10%.

【テキスト】

Cambridge English for Nursing Intermediate Plus Student's Book with Audio CDs (2) (Cambridge English for Series)Cambridge University Press.

【参考文献】

英語Ⅱ

担当教員 角田 俊治

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ねらい： 2学期の英語Ⅱに於いては、主として情報発信能力の向上を目指す。教員作成のプリント教材を用いて、可能な限りの基本的な英語による、福祉や医療に関わるベーシックなライティングができるようにする。併せて英語圏の国々の社会や文化への関心を深め、知識を増やして国際感覚を身につける。

到達目標： 基礎的な英語による作文力を身につけ、福祉や医療に関わる一定の情報発信ができる。高水準の語学力を必要とせずとも、それなりの英文が読める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、英語学習の意義説明等
2	ごく簡単な英語を利用した、自己紹介等のライティング演習
3	ライティングのための基本5文型の説明等
4	3を応用した基本的なライティング演習
5	福祉や医療に関わる初歩的なライティング演習
6	5よりも幾分か専門性の高い福祉や医療に関わる英語表現を演習
7	リーディング： 一流作家の書いた平易な英文の短編小説を原文で読む
8	リーディング： 7に同じ。小説のモチーフについて考える
9	リーディング： 福祉・医療等に関わるやや程度の高い英文を原文で読む
10	リーディング： 9に同じ。高度な英語力がなくとも、原文が読めることを知る。
11	福祉、医療、科学一般に関わる最も重要で使用頻度の高い動詞（15個前後）について解説、演習
12	11に関わる基本的なライティング演習
13	11、12に関わる幾分高度なライティング演習
14	13に続き、福祉や医療に関わる幾分高度なライティング演習
15	14までの講義の補足と総括

【履修上の注意事項】

- ・上記の展開計画は進捗の状況に応じて一部変更することがあります。（その際は適宜連絡します）
 - ・総て、講義は予習が行われていることを前提として行います。
 - ・辞書は必携。
- <本シラバスの内容は前年度と変わらないが、講義中に取り扱う設問は同一ではない。>

【評価方法】

試験 70%. 発表 20 %. その他（受講の積極性等）10%.

【テキスト】

教員自作プリント <プリント中の設問は前年度のものとは同一ではない。>

【参考文献】

随時配布

英会話 I

担当教員 アランジェームスサザランド

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Class goals are,

1. to improve each student's hearing and pronunciation abilities of spoken English;
2. to improve each student's personal confidence and abilities in both everyday and nursing English conversation skills; and
3. to expand each student's English vocabulary (both in nursing and general vocabulary).

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction, pronunciation practice
2	3 Types of English: 1)Medical, professional; 2)Doctor/Nurse to patient; 3)Everyday
3	Building blocks of medical English; prefix, suffix, roots & Role play
4	Role play activity, and language study
5	Role play activity, and language study
6	Role play activity, and language study
7	Role play activity, and language study
8	Test: Speaking and Language Test No 1
9	Role play activity, and language study
10	Role play activity, and language study
11	Role play activity, and language study
12	Role play study (Personal dictionary submission)
13	Role play activity, and language study
14	Role play activity, and language study
15	Test: Speaking and Language Test No 2

【履修上の注意事項】

Lectures based on prints given to students in class, accompanied by group study.

【評価方法】

A) Class participation 10%, personal dictionary 30%, and Speaking tests 60%

【テキスト】

Any small electronic English-Japanese dictionary. Collins Cobuild English Dictionary, use in the Library.

【参考文献】

スペイン語会話

担当教員

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考 平成29年度は開講しない

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

障害者言語

担当教員 福田 九

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

聴覚障害についての理論と、聴覚障害者が医療と社会の現場で置かれている現状を学び、医療従事者としての責務を学ぶ。又、ろうあ者・ろう者の母語である「手話」はどのような言語であるかを理論と実技の両面から学び、コミュニケーションについて深く考え、実践できるヒューマン労働者になり、基本会話の手話を習得して現場でろうあ者・ろう者と直接会話ができるようにする。

【授業の展開計画】

社会の中でマイノリティとして位置付けられている聴覚障害者と、圧倒的に多数派である聴者が共に生きる社会とはどのような社会なのかを考え、又、共に生きる社会を作る担い手になるための知識を「理論」として学習します。

手話については、音声言語である日本語との違いを理論と「実技」の両面から学習し、ろうあ者・ろう者とのコミュニケーションの第一歩の場面で、手話を使えるようになることを目指します。

週	授 業 の 内 容
1	Deaf World と Hearing World
2	人間とコミュニケーション 手話実技 1
3	人間と言語 手話実技 2
4	音声言語と視覚言語 手話実技 3
5	コミュニケーションの機能と役割 手話実技 4
6	コミュニケーションの手段 手話実技 5
7	聞こえのしくみ① 手話実技 6
8	聞こえのしくみ② 手話実技 7
9	障害の発生原因 手話実技 8
10	聴覚障害の発生原因 手話実技 9
11	聴覚障害を理解する① 手話実技 1 0
12	聴覚障害を理解する② 手話実技 1 1
13	聴覚障害者のHandicap 手話実技 1 2
14	聴覚障害者への支援と手話通訳 手話実技 1 3
15	まとめ

【履修上の注意事項】

毎回「理論」45分、「実技」45分の構成で行います。【理論】1回～6回→項目について自分の頭で考察して授業に臨むこと。7回～14回→事前にテキストを読んで臨むこと。講義を聞きながら、メモの取り方やノートの取り方を工夫し、授業後、ノートを整理し質を上げたノート作成に取り組むこと【実技】毎回、習った手話単語や文型を復習し、練習して覚えること。また、習得した手話単語や文型はできるだけ使用して使えるようにし、自己紹介（5項目）について相互会話ができるように努力すること。

【評価方法】

筆記試験 100%

【テキスト】

『聴覚・言語障害者とコミュニケーション』 一番ヶ瀬康子 監修、一橋出版

【参考文献】

特になし

中国語会話 I

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義のねらいは、受講者が半期の中国語の学習期間において、あいさつや自己紹介などの基本的な表現を習得し、基礎的な日常会話ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	中国について学ぼう 中国語の発音 声調・単母音の学習
2	複合母音・子音の学習
3	人称代名詞、否定、疑問など 浦東空港にて
4	名詞、副詞の用法 タクシーに乗って
5	所在を表す動詞「在」 ホテルでお茶を
6	「的」の省力 場所を表わす代名詞、存在を表わす「有」について学ぶ 私の家族
7	“喜歡”+同市の使い方について学ぶ 趣味は映画です
8	願望を表す助動詞“想” 大学の図書館へ
9	数詞、量詞について学ぶ 放課後
10	前置詞、完了の「了」について学ぶ 上海の交通
11	連動文 地下鉄付近にて
12	助動詞、経験を表わす表現について学ぶ
13	主文述語文、比較の表現 変化を表す表現など ちょっとおなかが空いた
14	結果補語、方向補語について学ぶ 突然の雨
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
 受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

小テスト 20%
 レポート 20%
 試験 60%

【テキスト】

教科書： 『LOVE 上海一初級中国語一』朝日出版社
 辞典： 相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

中国語会話Ⅱ

担当教員 高 継芬

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

備考 本講義を受講する学生は、必ず中国語会話Ⅰを履修しておくこと。

【授業のねらい】

本講義は、受講者が前期の中国語会話Ⅰで修得基礎知識をもとに、より豊かな中国語の表現力および会話力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	前期の学習内容を復習
2	自分について中国語で表現してみよう
3	家族について中国語で表現してみよう
4	日常生活について中国語で表現してみよう① 上海料理を食べる
5	日常生活について中国語で表現してみよう② おなかがいっぱいです
6	にちじょう生活について中国語で表現してみよう③ 外たんの夜景
7	日常生活について中国語で表現してみよう④ 上海語はおもしろい
8	日常生活について中国語で表現してみよう⑤ ホテルの部屋から
9	これまでの学習内容をふりかえって
10	日常生活について中国語で表現してみよう⑥ どうしたの
11	日常生活について中国語で表現してみよう⑦ 上海は魅力的
12	日常生活について中国語で表現してみよう⑧ またあいましょう
13	大学生のアルバイトを表現しよう
14	留学について中国語を表現してみよう
15	これまでの学習内容を確認

【履修上の注意事項】

予習と復習を必ずすること。
 受講の際は、辞典を必ず持参すること。

【評価方法】

レポート 20%
 小テスト 20%
 試験 60%

【テキスト】

教科書：『LOVE 上海 初級中国語』 朝日出版社
 辞典：相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

【参考文献】

適宜紹介

韓国語会話 I

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「ハングル」という文字についての理解と日本語と韓国語との比較をしながら、韓国語の基礎文法を理解する。また、韓国への観光・旅行や文化体験などの場合、簡単な会話に応用できる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「ハングル」文字に関する歴史的背景、文字の構成、文字の書き順について
3. 韓国語の特性についての日本語との比較説明及び子音・母音について
4. 「パッチム」とパッチムの連音化
5. 基本的な挨拶に関連する会話
6. 自己紹介などの簡単な会話
7. 小グループに分け、挨拶・自己紹介などを韓国語で行う（復習と練習）
8. 韓国の文化に関する理解（ビデオ鑑賞）
9. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 1
10. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 2
11. 韓国での観光・旅行を想定した場面での会話 3
12. 日本と韓国との文化の差について（韓国人講師の特別講演）
13. 日常生活での基本的な会話 1
14. 日常生活での基本的な会話 2
15. 日常生活での基本的な会話 3

【履修上の注意事項】

授業後には繰り返し復習する。

【評価方法】

- ①授業参加への態度及び発表 50点
- ②授業中のミニテスト 50点

【テキスト】

韓国語をはじめよう（初級）李 チャンギョ 朝日出版社

【参考文献】

韓国語会話Ⅱ

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

備考 本講義を受講する学生は、必ず韓国語会話Ⅰを履修しておくこと。

【授業のねらい】

韓国語会話Ⅰに続けて韓国の文化・歴史への理解・関心を深めながら、普段の生活のなかで、韓国語が応用できる。さらに、今後、韓国への留学や就職を希望する場合、必要な基本的知識やその内容についても紹介する。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 「韓流ブーム」に関する日本の若者の見解について（ディスカッション）
3. 韓国語会話Ⅰの復習－挨拶・自己紹介など
4. 具体的な場面を想定した日常会話（1）
5. 具体的な場面を想定した日常会話（2）
6. 具体的な場面を想定した日常会話（3）
7. 日本・韓国の大学との違い、大学生交流の重要性及びその役割などについて（特別講演；招聘講師）
8. 日常場面で応用できる会話（1）
9. 日常場面で応用できる会話（2）
10. 日常場面で応用できる会話（3）
11. 韓国の映画鑑賞
12. 韓国語での日記・作文の練習（1）
13. 韓国語での日記・作文の練習（2）
14. 韓国の文化・医療・福祉の動向について
15. 韓国への留学・就職に関する情報や諸大学の紹介・韓国留学・就職した先輩からのメッセージ

【履修上の注意事項】

- 韓国語会話Ⅰの授業内容を復習しておく。
- 韓国語会話Ⅰを履修していない方も可能です。

【評価方法】

1. 授業参加への意欲・態度及び発表 50点
2. 授業中のミニテスト 50点

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献】

ドイツ語 I

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

「ドイツと言えば何を思い浮かべますか」というアンケート調査に関して、日本の若者による最も多い回答は、「ベルリンの壁崩壊」ですが、しかし学校教育で、その授業を実際に受けたことはないという、期待感の不足という実情も判明してきました。そこで現代を生きる君たちにふさわしい、ドイツ語学習を通じたドイツ・ヨーロッパの現在を学びます。同時に言葉の客観的構造を思考様式と併せて、理解できるようになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	語形変化と意味論①：動詞の現在人称変化
2	語形変化と意味論②：名詞と人称代名詞、性と格変化
3	統語論①枠構造：語順と定動詞の固定位置
4	語形変化と意味論③：前置詞の格支配
5	語形変化と意味論④：助動詞
6	統語論：テーマとレーマ
7	語形変化と意味論⑤形容詞の格変化、名詞・代名詞・形容詞の格変化のまとめ
8	語形変化と意味論⑥動詞の三基本形
9	会話とテキスト理解①
10	語形変化と意味論⑦：関係代名詞の格変化、指示代名詞
11	統語論③：副文構造の枠構造
12	統語論④：完了時制の枠構造
13	統語論⑤：受動態の枠構造
14	会話とテキスト理解②
15	会話とテキスト理解③

【履修上の注意事項】

独和辞典の購入と教室必携は、早い時期にすること。ドイツ語学習は、辞書の引き方それ自体が学習内容であるからです。辞書による予習・復習ということを心掛けてください。

【評価方法】

小試験＝40点、レポート＝20点、定期試験＝40点。

【テキスト】

関ロー郎著『アレス・クラール』郁文堂出版。

【参考文献】

『過去の克服・二つの戦後』ヴァイツゼッカー著、山本 務訳著、日本放送出版協会。

ドイツ語Ⅱ

担当教員 竹中 健

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 本講義を受講する学生は、必ずドイツ語Ⅰを履修しておくこと。

【授業のねらい】

1989年11月ベルリンの壁崩壊、翌年10月ドイツ統一とともに、ヨーロッパは新たな統合の枠組みを目指してきましたが、これは、明治時代以後、初めて私たち日本にも「ヨーロッパの出現」という現象となって注目の対象となりました。国境を軽く超える、人的・物的交流は、観光の高まりとともに、この20年間で一変してきました。そのヨーロッパの一中心、ドイツの現在を、ドイツ語学習を通じて知ることができます。併せて、日本語それ自体をも対象としながら、言葉によって考えるということも学習できます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	語形変化と意味論の演習①：名詞の格変化、代名詞の格変化
2	語形変化と意味論の演習②：形容詞の格変化
3	統語論の演習①：助動詞構文の枠構造
4	統語論の演習②：完了時制の枠構造
5	統語論の演習③：副文構造の枠構造（従属の接続詞）
6	統語論の演習④：副文の枠構造（関係文）
7	統語論の演習⑤：受動態の枠構造
8	定冠詞と不定冠詞の使い分けという課題①既知と未知
9	定冠詞と不定冠詞の使い分けという課題②日本語、英語、ドイツ語
10	テキスト言語学の基礎概念：テーマとレーマ①
11	テキスト言語学の基礎概念：テーマとレーマ②
12	単語、文からテキストへ：首尾一貫性と結束性
13	最も動的で、しかも安定性を持つテキストとは？：線条的なテーマ進行
14	ドイツ語紙誌を読む①：新チューリッヒ新聞から
15	ドイツ語紙誌を読む②：シュピーゲル誌から

【履修上の注意事項】

独和辞典を引きまくるという態勢を築いて欲しい。また、テレビ衛星放送でドイツのニュース番組「ZDF」を見られるという習慣が形成できます。

【評価方法】

レポート＝40点、定期試験＝60点。

【テキスト】

関ロー郎著『アレス・クラール』郁文堂書店。

【参考文献】

『過去の克服・二つの戦後』ヴァイツゼッカー著、山本 務訳著、NHKブックス

中国事情 I

担当教員 高 継芬、新任教員

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

準備事項

単位数 2

備考

【授業のねらい】

中国語の文書を読むことによって中国の古代の文化や現代の中国事情について理解することができる。
古代の文化は三字経と千字文について学ぶことができる。
現代の中国事情については中国の人口地理民族などについて理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション(孫・高)
2	中国の三字経①(孫)
3	中国の三字経②(孫)
4	中国の三字経③(孫)
5	中国の三字経④(孫)
6	中国の千字文①(孫)
7	中国の千字文②(孫)
8	中間復習まとめ(孫)
9	中国概況(高)
10	中国の飲食習慣(高)
11	中国の節日(高)
12	中国の交際礼儀(高)
13	中国の現代の大学生(高)
14	現代中国の抱える問題(高)
15	総括まとめ(孫・高)

【履修上の注意事項】

事前に授業の内容を予習をすること、毎回授業が終わった後復習すること。

【評価方法】

レポート 40%
小テスト 20
試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介する

中国事情Ⅱ

担当教員 高 継芬、新任教員

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

主として中国の現代事情を理解しつつ、その事象について分析考察します。伝統文化と現代文化の関連性や、中国特有の事情と日本お違いに注目します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション (孫・高)
2	中国の消費観念 (孫)
3	中国の就職事情 (孫)
4	中国の婚姻 (孫)
5	中国の教育事情 (孫)
6	中国の健康概念 (孫)
7	中国の定年後の娯楽 (高)
8	今までの振り返り (高)
9	中国の医療事情 (石)
10	中国の観光事情 (石)
11	中国の伝統休日 (石)
12	中国の世界遺産 (石)
13	中国の伝統習慣 (石)
14	中国の伝統礼節 (石)
15	総括 (孫・高)

【履修上の注意事項】

事前に授業内容を予習してくるものと事後授業内容を復習してくることができれば授業がスムーズに進みます。

【評価方法】

レポート 40%
小テスト 20%
テスト 40%

【テキスト】

講義時随時プリント配布

【参考文献】

適宜紹介

アジア文化

担当教員 高 継芬、安藤 学、金 蘭九、李 玄玉、新任教員

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジアの国々と地域の文化形成過程(文化史)を学修し、それぞれの文化における共通性と異質性を認識することによって異文化への理解を深めることをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化とは(安藤)
2	タイの文化(その歴史と現在)(安藤)
3	日韓文化の遠近(金)
4	日中の歴史について(孫)
5	日中旅遊観光の文化について(孫)
6	日中教育の文化について(孫)
7	台湾の文化について(高)
8	韓国から日本へ伝えられた様々な文化について(李)
9	「飛鳥」という地名の意味、由来…(李)
10	日本語の「鳥・とり」と韓国語の「D o r i」について(李)
11	日中文化における共通性と異質性 漢字の比較(高)
12	日中文化における共通性と異質性 論語について(高)
13	日中文化における共通性と異質性 衣食住の比較(高)
14	日本の文化を知る(高)
15	文化についてのディスカッション(担当者全員)

【履修上の注意事項】

アジア文化の関連する本を事前に読んでいただくとスムーズに受講できます。

【評価方法】

レポート 20%
小テスト 40%
試験 40%

【テキスト】

講義時プリント配布

【参考文献】

適宜に紹介する。

基礎生物科学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

看護系の開講科目の中には、医療スタッフの一員として働く上で必要な共通の教養と専門基礎知識を身に付けるために、生化学、解剖生理学、薬理学などが設けられている。これらの生命科学と関わりのある科目の内容を理解するためには、生物有機化学や分子生物学的な基礎知識が必須である。この授業では、生物(特にヒト)の体内での合成や分解(代謝)によって創り出される物質や栄養素、遺伝子(核酸)など、いろいろな有機化合物の構造・性質・働きについての基礎知識を習得し、これを専門・専門基礎科目の内容のより深い理解に役立てる。

【授業の展開計画】

授業の前半(第1週から8週まで)は、有機化合物を構成する元素やその結合様式、分子の形と混成軌道、官能基の構造と性質など、生体物質を理解する上で基礎となる内容を中心に進める。特に、生体内での代謝で創り出される有機化合物(生化学や栄養学などで必ず出てくるもの)についてわかりやすく解説し、構造式を書ける程度まで学習する。後半は、生物の単位である細胞を構成する主な有機化合物について考え、それらの構造や性質と役割、さらには遺伝子の構造や発現機構についても言及する。

週	授 業 の 内 容
1	生物を構成する元素の特徴 - CHONSPから成る分子の世界
2	有機化合物の書き方とアルカン - 分子の形を見る(sp ³ 混成軌道)
3	アルケンとアルキン - 分子の形を見る(sp ² 混成軌道とsp混成軌道)
4	ベンゼンと芳香族 - 亀の甲の形を考える
5	有機化合物の官能基と分類 - 分子の性質を決める原子団
6	有機化合物の官能基の性質と反応 - 酸・塩基、酸化・還元反応や脱水反応の産物
7	有機化合物の構造異性と光学異性 - この双子兄弟は一卵性?二卵性?
8	到達度チェックの中間試験と授業の中間まとめ
9	細胞の有機化学 - 60兆個の細胞の基本形と有機化学的見かた
10	糖質と脂質の化学 - エネルギーの作り方と貯め方
11	アミノ酸の化学 - タンパク質を作る20種類の材料と性質
12	タンパク質の化学 - タンパク質の構造と性質
13	核酸の化学 - 核酸を作る5種類の材料と組み合わせ
14	遺伝子と核酸 - DNA上の遺伝子の構造と働き
15	遺伝子発現 - mRNAの発現と調節

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で有機化学を履修しなかった、苦手としていた、好きで履修したがもう一度学び直したい、生体を構成する有機化合物の構造と機能などにも少し興味がある学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容をちょっと確認し、また、受講したその日の内に短時間でも復習し、学んだことを記憶に残す努力をする。「わかること」「知ること」を「楽しむ」姿勢で受講するとよい。

【評価方法】

本試験60点、中間試験20点、学習態度(確認小テストを含む)20点

【テキスト】

1. 食を中心とした化学(北原重登ら、東京教学社)
2. プリント

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - (齋藤勝裕ら、裳華房)
 これでわかる基礎有機化学(畔田博文ら、三共出版) イラスト生化学入門(相原英孝ら、東京教学社)

環境生物学

担当教員 松岡 正佳

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

微生物は私達の世界の一員として、多くは生命の維持に必要であり、また食品製造に使われているものもある。しかし少数の微生物は人間に病気を引き起こす病原菌であり、この授業では病原性微生物に焦点を当て、それらが人間との摩擦を起こす原因や環境要因について学ぶ。微生物の正確な知識を習得し、伝染病の防御の方法や、どのようにして微生物とうまく付き合っていくかについて知識を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	微生物の挑戦とはどういうものか。伝染病の引き起こされる要因について考察する。
2	微生物の世界。微生物界を形成する多様な微生物種とその性質について学ぶ。
3	微生物の有益な側面。コインのもう一つの面。
4	細菌（バクテリア）。
5	ウイルス。
6	細菌の遺伝学。細菌における遺伝的交雑の機構について概観する。
7	微生物病の概念。微生物とその宿主の出会いは偶然であるという事実を認識する。
8	疫学と微生物病の周期および院内感染。
9	細菌による病気と感染経路。
10	ウイルスによる病気と感染経路。
11	原生動物および寄生虫による病気と感染経路。
12	免疫反応。免疫系により微生物由来の外來分子が認識・排除される機構について学ぶ。
13	微生物病の管理。対処方法について知る。
14	伝染病の管理における協力。伝染を防ぐ効果的な協力体制について知る。
15	生物兵器や現代の伝染病。この授業のまとめ。

【履修上の注意事項】

Power Pointを使った説明の後、設問が与えられる。次回までに解答しておいてください。

【評価方法】

3回のテストの合計点で評価します。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

The Microbial Challenge第2版、Jones and Bartlett Learnings (2010年、英文)

統計学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

EBM(Evidence Based Medicine)、EBN(Evidence Based Nursing)などの言葉に代表されるように、得られたデータを客観的、論理的に分析し、その結果に基づいて意志・行動決定を行うという視点が医療従事者には必須となっている。そこで本講義では、確率論の基礎知識を踏まえた上で、データを分析する手法や手順、得られた結果の評価方法等を、なるべく多くの事例に関する演習を通して実践的に理解し、得られたデータから適切な分析手法を選択し、データ分析ができるようになることを目標とする。

【授業の展開計画】

01. 質的データと度数分布表・ヒストグラム
02. 量的データと代表値、分散
03. 正規分布、t分布、 χ^2 乗分布とその性質
04. 母平均・母分散・母比率の推定
05. 検定の考え方、第1種・第2種の過誤
06. 母平均の検定、対応のある2つの母平均の差の検定
07. 対応のない2つの母平均の差の検定
08. ノンパラメトリック検定（順位和検定）
09. ノンパラメトリック検定（符号検定）
10. ノンパラメトリック検定（符号付き順位和検定）
11. 母比率の検定（対応のある場合、ない場合）
12. 適合度の検定、独立性の検定
13. イェーツの補正、マクネマー検定
14. 相関関係と相関係数
15. 回帰分析

【履修上の注意事項】

テキストはなく、配布プリントを配布するだけなので、事前の予習、事後の復習が要求される。特に、わからないことは、わからないまま済ませずに、遠慮なく質問に来るようにしてもらいたい。

【評価方法】

筆記試験の結果で判断する。再試験は行なう。

【テキスト】

プリント資料を配布する

【参考文献】

適宜紹介するが、図書館にも「統計学」で学内蔵書検索をすると、多くの蔵書が見つかる。実際に手に取ってみて、自分に合う参考図書を見つけてみるのもよいだろう。

情報リテラシー

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

高校における「情報」の履修を踏まえ、大学生として、また社会にでてからも必要となっていく「情報活用力（情報リテラシー能力）」を高めていくことがねらいである。これにより、これからの高度情報化社会に対応した、身の回りのパソコンやネットワークなどの情報環境を、自ら積極的に、利活用できるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	情報教育システム・教務システムの利用	16	Excelの基本操作③ 複合グラフ
2	E-mailの利活用① 仕組みと設定等	17	Excelの基本操作④ 絶対参照と相対参照等
3	E-mailの利活用② アドレス帳の設定等	18	Excelの基本操作⑤ 日付・時間の表示形式
4	E-mailの利活用③ ファイル添付等	19	Excelによるデータ処理 様々な関数の利用
5	Wordの基本操作① 日本語入力、段落設定等	20	Excelによるデータ処理 IF, SUMIF 等
6	Wordの基本操作② インデント、段組み等	21	Excelによるデータ処理 ピボットテーブル
7	Wordの基本操作③ タブとリーダー等	22	Excelによるデータ処理 並べ替え
8	Wordの基本操作④ 罫線、図の挿入等	23	Excelによるデータ処理 フィルター
9	Wordの基本操作⑤ 図形描画、修正	24	Excelによるデータ管理 検索、置換等
10	Wordの基本操作⑥ 複数の図形の組合せ	25	Excelによるデータ管理 条件付き書式等
11	Wordの基本操作⑦ 曲線とフリーフォーム	26	ExcelとWordのデータ連携
12	Excelの基本操作① データ入力、表作成等	27	WebのデータのExcel, Wordでの利活用
13	Excelの基本操作② 数式入力、関数利用等	28	Powerpointの基本操作① 入力、テーマ 等
14	Excelの基本操作③ 棒グラフ、折れ線グラフ	29	Powerpointの基本操作② 画面切り替え 等
15	Excelの基本操作④ 円グラフ、散布図	30	Powerpointの基本操作③ レポート提出課題

【履修上の注意事項】

基本操作が充分理解できていない場合は、事前に予習をしておくこと。また、講義中はノートをしている時間はないので、復習する中で自分の理解を確かめながら、手順や注意事項をメモするように。

【評価方法】

課題レポートと、筆記・実技試験の結果を総合的に判断する。配点は、レポート40%、試験60%。再試験は行なう。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考文献】

講義中に、適宜紹介する。

生命倫理

担当教員 柴田 恵子、松本 鈴子、川本 起久子、二宮 球美、小林 幸人、村田 宮彦

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生命に関する倫理的諸問題について、人はどのように対処すべきだと考えられるかについて理解する。先端医療を始めとするバイオテクノロジーの発展がもたらす恩恵とそれにともない間われることになった生命の意味について、基本的概念とその問題点の学びから生命倫理学に関心をもち考えを深められるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と生命倫理：生命の質（柴田）
2	インフォームド・コンセント（柴田）
3	周産期医療と生命倫理（松本）
4	小児期の保健・医療と生命倫理（二宮）
5	尊厳死（川本）
6	安楽死（川本）
7	終末期ケア（川本）
8	パターナリズムと患者の権利（小林）
9	自律とwell-being（小林）
10	専門職の役割・責務（小林）
11	医療資源の配分（柴田）
12	パーソン論（柴田）
13	ケアと生命倫理（柴田）
14	倫理の源を考える：規範倫理学の時代（村田）
15	倫理の源を考える：応用倫理学の発展（村田）

【履修上の注意事項】

レポート発表、グループワークを行うので積極的に授業に参加をすること。課題に対して自分の意見を準備しておくこと。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

【評価方法】

定期試験：60%、学習態度・状況（レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

【テキスト】

随時、紹介する。

【参考文献】

『生命倫理学を学ぶ人のために』（加藤尚武・加茂直樹編）世界思想社

人間工学

担当教員 西島 衛治

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、日常の生活環境の整備計画を行う上で「人間工学」的視点がどのように利用できるかを中心に行う。特に、学生が、高齢者や障害者の心身の状態を踏まえた日常生活環境整備のあり方について把握できることを講義の核心とする。

【授業の展開計画】

【授業内容】

看護業務や介護福祉業務、またリハビリテーション業務などのコメディカルとしての業務において、身体の負担を軽減する方法を人間工学やボディメカニズムの視点から理解する。また、医療工学（ME）器具、ベッド、椅子、衣服、機器や道具が人間工学的にどのような配慮がなされる必要があるかを学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	人間工学の成立過程を歴史的背景から理解する(西島衛治)
2	人間工学の研究手法とは何か、またその応用分野について学ぶ(西島衛治)
3	人間工学を理解するうえで必要な基礎資料を学習する(西島衛治)
4	人間工学がどのように家具全般へ応用されているかを理解する(西島衛治)
5	人間工学がどのようにいすへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
6	人間工学がどのようにベッドへの応用がなされているかを理解する(西島衛治)
7	人間工学がどのように機器への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
8	人間工学がどのように衣服への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
9	人間工学がどのように履物への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
10	人間工学がどのように住宅への応用がなされているかを理解する(西島衛治)
11	人間工学がどのように高齢者（看護・介護）へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
12	人間工学がどのように障害者（看護・介護）へのアプローチをしているかを理解する(西島衛治)
13	人間工学と関連分野（リハビリテーション工学）との関係性を考える(西島衛治)
14	人間工学と関連分野（福祉環境マネジメント論）との関係性を考える(西島衛治)
15	人間工学と関連分野（福祉環境工学）との総括的な関係性を考える(西島衛治)

【履修上の注意事項】

【準備学習】事前に講義テキストを予習し記録する（120分）【課題等に関するフィードバック】講義内容を記録し、不明な部分を調べる。記録を図化や表に整理する。（120分）【その他のアドバイス】講義の中でノートの作成方法を指導する。そして、講義内容を理解できる内容に構造化する。結論の整理を箇条書きにする。理解できない場合、講師に質問する。

【評価方法】

1. 予習・復習による自主学習態度の確認(20%)。2. 定期試験や中間理解度確認試験による評価（60%）。3. レポートによる評価（10%）。4. 講義における質疑応答状況(10%)、出席重視(6回以上の欠席は定期試験が受験不可)：学則により、欠席回数が講義回数の三分の一を超えると、定期試験が受けられないので注意する。履修届けがない場合は、出席しても単位が出ない。

【テキスト】

小原二郎著「新版 暮らしの中の人間工学」実教出版、2015年

【参考文献】

小川 鑛一【著】「イラストで学ぶ看護人間工学」、東京電機大学出版局（2008/03発売）、価格 ¥3,240（本体 ¥3,000）

環境科学

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

環境問題というものをどのようにとらえるか、またその問題をどのように解決していくかを、自然と人間との関係から考え、その方法を修得できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	環境科学オリエンテーション
2	環境とは何か
3	自然環境と人間
4	都市・工業国と農村・農業国
5	人間の活動と地球のバランス
6	地球・生物圏・生態系
7	食糧か環境保全か
8	農耕地生態系
9	農業の工業化・機会化
10	持続可能な社会を構築する条件
11	経済効率と入会地の悲劇
12	入会地としての税金
13	汚染者負担の原則
14	今後の環境問題
15	環境問題の解決策

【履修上の注意事項】

努めて出席すること。ノートをきちんと毎回とること。授業前にその単元を一度読み自分なりにまとめておき、授業後は教科書とノートを照らし合わせて復習をしておくこと

【評価方法】

レポート提出（80％） 授業中の取り組み（20％）

【テキスト】

【参考文献】

適宜紹介する

物理学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

物理学は、自然科学の中で最も基礎的な学問分野で、その学修(習)により、身近な自然現象が理解できるようになるだけでなく、事実に基づく論理的思考力、既知のことと未知のことを区別して考える分析的思考力を身に付けることができる。それらの力は、他のすべての科目の学修(習)を進める際の力になる。

【授業の展開計画】

教科書に沿って、基本的に以下のような計画にしたがって進めます。

週	授 業 の 内 容
1	力のつり合い (力の表し方, 力の合成・分解, 作用反作用, 力のつり合い)
2	大きさのある物体 (質点と剛体, 力のモーメントとつり合い, 圧力, 浮力)
3	運動の表し方 (速さ, 速度, 速度と移動距離, 加速度, 等加速度直線運動)
4	運動の法則 (運動と力, 重力加速度, ニュートンの運動の法則, 運動方程式を解く, 重力による運動)
5	いろいろな運動 (張力が働く場合, 摩擦力が働く場合, 空気抵抗がある場合の運動)
6	いろいろな運動 (等速円運動, 等速円運動の表し方, 等速円運動の例)
7	いろいろな運動 (単振動, 単振動の例)
8	仕事 (仕事とはなにか, いろいろな力をする仕事, 力の大きさが変化する場合の仕事量)
9	エネルギー (エネルギーとは何か, 運動エネルギー, 位置エネルギー, 力学的エネルギーと保存)
10	運動量 (衝突, 力積, 運動量, 運動量保存の法則, はね返り係数, 直線上の衝突, 床と斜め衝突)
11	静電場 (静電気力, 帯電列, 電気量保存の法則, 電場, 電気力線, 電位, 点電荷による電位)
12	電流と磁場 (電流, オームの法則, 磁気力, 磁場, 磁力線, 電流の作る磁場, 磁場が電流に及ぼす力)
13	直流回路 (電気回路, 抵抗の接続, コンデンサー, 誘電体, コンデンサーの接続, 静電エネルギー)
14	交流回路 (交流電圧, 抵抗, 実効値, コンデンサー, コイル, 共振回路, インピーダンス)
15	原子核と放射線 (元素と原子核, 原子質量単位, 放射線と放射能, 原子核の崩壊, 半減期)

【履修上の注意事項】

講義は、現象や理論の解説だけでなく、問題を解きながら進めますから、覚えようとするのではなく、なぜか？という問題意識を持って臨むことが大切です。そのために、教科書、ノートの他に四則・指数・対数・ルート・累乗・()の計算ができる電卓を必ず用意することが必要です。予習は次の授業でやる教科書の部分を30分程度をかけて読むこと、復習はやはり30分から1時間はかけ、指定された演習問題を解く、授業でやった教科書の部分を読み、ノートに記した図や式、計算を別紙に書きながら納得することが必要です。

【評価方法】

期末試験75%、問題演習25%を総合します。比率は、若干変更することがあります。

【テキスト】

「大学新入生のための物理学入門 第2版」廣岡秀明 著 共立出版

【参考文献】

第4版 物理学基礎 (原 康夫 著, 学術図書出版社)
人物で語る物理学入門 (上・下) (米沢富美子 著, 岩波新書)

数学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、「数理的な考え方」を身に付け、必修科目の「統計学」を基本から理解できるようになるための基礎固めを行なう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	数と演算
2	度数と分布
3	算術平均, 加重平均; 幾何平均
4	比・連比, 比率 (静的・動的)
5	リスク比, オッズ比
6	様々な関数, 逆関数
7	累乗関数とその性質
8	指数関数とその性質
9	対数関数とその性質
10	グラフの描き方・読み方
11	経験的確率と理論的確率
12	根元事象と場合の数, 順列・組合せ
13	2項分布とポアソン分布
14	条件付き確率, 期待値
15	ベイズの定理

【履修上の注意事項】

テキストを使用しないので、講義中のノートをしっかり取るだけでなく、事前学習が必要になる。また毎回、前の週の確認テストを行なうので、復習をし、特に授業中の演習問題は、もう一度解いてみて、その考え方のプロセスを学ぶこと。

「数理的な思考」を身に着けるには、自分の頭で考えてみる事が大切です。

【評価方法】

平常点：定期試験＝1：4で評価します。

【テキスト】

使いません（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考文献】

適宜、指示します。

化学

担当教員 水崎 幸一

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

将来、看護系・医療技術系スタッフとして社会で活躍する皆さんは、人体の構造と働きや医療器具・医薬品などについて正しく理解し、これらの知識をもとに疾病の予防や回復のための対処法についてよく考え、的確に判断をすることが必要になる。そのために、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学など専門基礎分野や専門分野の科目を学修しなければならない。本科目を受講することで、医療スタッフとして重要かつ必須の化学的な基礎知識を身につけ、専門基礎分野や専門分野の科目の内容を、科学的（化学的）により深く理解できるようになる。

【授業の展開計画】

この授業では、初めに物質を構成する目では見えない主な粒子、原子、分子やイオンの成り立ちを知り、物質中に見られるこれらの粒子の結合の仕方（化学結合）を理解する。次に、化学や物理で決められている原子、分子、イオンの量的な取り扱い方を知り、物質の状態変化や化学的な変化（化学反応）を量的な変化として表す方法を学ぶ。また、医療と関係の深い物質の濃度の表し方やその状態に関する現象（原理と法則）について学び、さらに主な物質（酸化剤・還元剤、酸・塩基）の性質とその定義、反応の理論についても理解する。

週	授 業 の 内 容
1	物質を構成する見えない粒子（原子）を想像する — 元素とその原子の構造（原子核と電子）
2	原子の性質は原子が持っている電子で決まる — 原子の電子配置と周期性
3	原子が物質のもとになる粒子（イオンと分子）に姿を変える理由 — オクテットルール
4	物質中の原子どうしの手のつなぎ方を見る — 化学結合（イオン結合と共有結合）
5	原子・分子・イオンの質量（重さ）と物質量を考える — 化学量と物質量（molとEq）
6	原子・分子・イオンの質量（重さ）をmolで表現する — 物質量（molとEq）の換算方法
7	水溶液の濃度 — 百分率（%）とモル濃度（mol/L）、その他
8	水溶液の性質とヒトの血液 — 蒸気圧と浸透圧
9	物質が姿を変える — 状態変化と化学変化そしてエネルギー変化
10	反応の速さと進む方向の偏り — 可逆反応と化学平衡
11	酸化するものと酸化されるもの — 酸化と還元、酸化・還元反応の理論
12	ヒトは生きるために酸素を必要とする — 生体内での酸化・還元反応
13	酸性を示すものとアルカリ性をしめすもの — 酸と塩基とpH、酸・塩基反応の理論
14	ヒトのからだと血液のpH — 緩衝液とpH
15	ヒトの細胞内はコロイド溶液 — コロイド溶液とその性質

【履修上の注意事項】

この科目は、高校で化学を履修しなかった、化学を苦手としていた、化学が好きで履修したがもう一度学び直したい学生の皆さんを対象にしている。受講する前には「シラバス」を見て、その日の授業内容を確認しておくこと、また、受講したその日のうちに短時間でも復習し、記憶に残す努力をするとよい。授業の最初か最後に、皆さんの理解度を確認するための小テストを行いながら、「わかること」を「楽しめる」丁寧な講義を行う。

【評価方法】

定期試験 80%、学習態度（確認小テストを含む） 20%

【テキスト】

食を中心とした化学（第3版）（北原重登ら、東京教学社）

【参考文献】

コ・メディカル化学 - 医療系・看護系のための基礎化学 - （齋藤勝裕ら、裳華房）
まるわかり！基礎化学（田中永一郎ら、南山堂）